

2022
07
summer
VOL.29

大崎市民病院広報誌

TAKE FREE

ご自由にお取りください

つながり

一致団結して命がけのお産に備える
周産期センター



新人助産師の皆さん

一致団結して命がけのお産に備える 周産期センター

周産期センターの役割

大崎市民病院、周産期センターでは産婦人科医師9名、助産師スタッフ約30名が勤務し、大崎市内はもとより栗原・登米地方を含めた県北医療圏の周産期医療を担う中心的存在です。分娩件数は例年約5000〜

6000件程度、合併症やリスクの少ない妊婦さんはもちろん、切迫早産や子宮内胎児発育遅延などのいわゆるハイリスク妊娠と診断された妊婦さんを含め、あらゆる方々の周産期管理を一手に引き受けています。

お産は母と子にとって命がけ — 危機的状況に備えて —

一般の人々にとって、妊娠、出産はそれほど怖いイメージはないかもし



心拍数を測って赤ちゃんの健康をチェックします

他診療科との連携

ハイリスク妊娠とされる疾患の中には、高血圧や糖尿病を合併する方、その他、甲状腺疾患や膠原病など妊娠経過や母児に大きな影響を与える合併症も少なくありません。妊娠を契機にこれらの疾患が発見されることもあり、合併した場合、当院にはそれぞれの専門診療科(腎・高血圧内科、糖尿病内科、リウマチ科等)の医師が常勤医として存在しています。こうした病院全体のバックアップのもと、細やかな診察を行いながら出産まで管理しています。いよいよ出産が近づいてきた時には、小児科の医師と密に連携を取りながらお産を行い、必要時はNICU(新生児集中治療室)で管理する体制をとっています。

他施設との連携

— 地元のクリニックから 仙台の高次施設まで —

地域の産科・婦人科クリニックでの妊婦健診において、お母さんやお腹の中の赤ちゃんに対し心配な点があると判断された場合、当院への紹介窓口は主に二つあります。一つは地域



大崎市民病院「周産期センター」のスタッフ

連携室を通じた外来ベースでの紹介であり、特に急を要さないケースはこちらの経路で毎日の妊婦健診外来へと紹介いただいています。もう一つは緊急時対応です。こちらは昼夜時間を問わず受け入れ体制をとっており、電話で連絡を受けた後は、場合によっては直ちに救急車で搬送していただくこともあります。この連携がどれだけスムーズかによって、その地域の周産期医療の質が決まるとも言えますので、地域のクリニックとは常日頃から情報交換などを気軽に行えるよう心がけています。

また、周産期医療においては一か所の施設で全ての疾患を管理できるということはほぼ不可能です。当院においても妊娠29週未満で早産となりそうな妊婦さんや、胎児奇形、双胎間輸血症候群などが疑われる場合には、東北大学病院や宮城県立二こも病院などと直接連絡を取り合い、速やかに紹介、搬送できる連携体制を常に整えています。

周産期メンタルヘルスケア

近年、妊婦・褥婦さんのメンタルヘルスが注目されています。産後うつ



産科 齋藤 彰治(さいとう・しょうじ)

れません。ですが、われわれ産婦人科医は全ての妊娠、分娩はお母さんや赤ちゃんにとって命がけのイベントであると考えています。危機的状況は突如、緊急的に起こってしまうこともままあることで、致死的結果を招く場合もあります。このような事態に対応するため、産科の領域には超緊急帝王切開術(通称「グレードAカイザー」と呼ばれるものがあり、当院でも年に5回前後は施行されています。

という言葉聞いたことがある人も多いかと思いますが、実際には妊産婦死亡の原因のかなりの割合を占めると考えられるようになってきました。通常、お産の後は一か月健診に来ていただき、そこで問題がなければ一旦終診となります。ところが産後うつは、その一か月健診の後にも症状が増悪することもあり、つらい思いを一人で抱えてしまうケースが生じているとされます。当院ではそういった妊産婦さんを早期に見出し、継続的なサポートを実現するため、産後2週間健診や頻回なスクリーニング検査(妊娠初期、中期、分娩時、産後健診時のエンジンバラ産後うつ質問票や赤ちゃんへの気持ち質問票)を行い、ハイリスクと判断した場合、自治体の保健師さんと連携し長期的な支援を行うことができるよう努めています。

家族の幸せのために

妊娠、出産は本来おめでたいことであり家族の幸せの象徴となるものです。皆様の大事な出産イベントに安心して臨んでいただけるようこれからも全力でサポートしていきたいと考えています。



他職種でのコミュニケーションの中から必要な情報を探ります



母乳育児支援研修会の様子

周産期医療における 当院小児科の取り組みについて

宮城県は現在、全国学力テスト小学生国語43位、算数47位、中学生国語36位、数学46位(令和3年度、宮城県庁HPより)となっております。また小中学校の不登校児童の割合は平成30、令和元年度が全国1位、令和2年度が4位と低下傾向であるものの(宮城県庁HPより)、まだ上位です。残念ながら現在宮城県は子どもたちが健やかに育ちやすい環境であるとは言えません。

周産期医療における小児科の立場から、このような環境を改善していくためには、一つ一つの家庭での赤ちゃんに対する適切な愛着形成を支援していくことが大切と考えています。そして、家族と地域で子どもたちの未来に目を向け、子どもたちが将来可能な限り自立した楽しい生活を送れるよう考え続けることをサポートしていければと考えています。周産期にできる具体的なこととしては、家庭の生活環境を整えるために支援することや、主な養育者に育児のサポートがあり孤立させないこと、家庭に適切な育児の知識が

あることを確認し、支援していくことです。

小児科としては、この支援のため産科、かかりつけ医、看護師、社会福祉士などの関係職種はもちろん、母子保健行政機関との連携も大切に、地域多職種連携を実践しています。発達や家庭環境に不安がある場合は、産科退院後も小児科として赤ちゃんを定期的に診察し、赤ちゃんの養育環境が問題ないかをみていき、関係機関への橋渡しなどの連携も行います。赤ちゃんの養育環境や発達に問題がある場合、行政との情報共有や介入支援を要請する場合があります。また、赤ちゃんの生活環境が安全と云えない場合、緊急通報することもあります。他にも病院全体の取り組みとして、地域の保健師や児童相談所職員が集まる支援会議に積極的に参加し、課題共有、支援方針を確認しています。さらに、虐待防止研修会などを開催し、院外関係機関の職種に参画いただける機会を通し、地域全体の質と連携の強化に努めているところです。

母乳育児の取り組みについて

当院では母乳育児の良さを地域で理解し、助け合って行っていくことを目指し活動しています。その過程として、日本母乳の会におけるBFH(※)の取得を目指しております。母乳育児は赤ちゃんへの適切な愛着形成を強力に後押ししてくれるものと考えております。

以上のように、当院では当地域が少しでも子育てしやすい環境になるよう努めております。今後も何が必要か考え続け、できることを一つ一つやっていきたいと思っております。



小児科
北西 龍太(きたにし・りゅうた)

※BFH:
Baby Friendly Hospital
の略。
「赤ちゃんに優しい病院」
のこと。



手術支援ロボット導入

手術支援ロボットとは

当院では令和4年度中に手術支援ロボット(ダヴィンチ・システム、Intuitive Surgical社製)を導入し、手術を開始する予定です。

手術支援ロボットとは、低侵襲な内視鏡手術である従来の腹腔鏡手術をさらに進化させ、より正確で高度な手術を行うた

めに開発された手術器具です。一般的にロボットというと人工知能を搭載した精密機械を連想しますが、ダヴィンチは実際に手術手順を計画・実行するロボットではなく、術者の手指の動きを再現する手術支援システムです。術者は3Dモニターを見ながら遠隔操作で装置を動かすと、その手の動きが光ケーブルを通じて、手術用鉗子や内

視鏡カメラを正確に動かすことで手術を行います。

当院ではダヴィンチの運用を開始するために、対象疾患医師や麻酔科医師、手術室看護師などから構成する検討チームをつくり、体に優しく安全で確実な手術を目指して準備を行っています。

専門・認定看護師による がん相談会

当院がんサロンにおいて、がん関連の専門・認定看護師によるがん相談会を実施しています。当院がかかりつけでなくても、がんに関する疑問や不安があれば、患者さん、ご家族、どなたでもご利用頂けます。

開催日 毎週月曜日
※第五月曜日・祝日を除く

時間 10:00～12:30

申込
不要

1回
20～30分

相談料
無料

当日直接がんサロンに来室し、「がん相談会に来ました」とお声がけください。不明な点は、がんサロンまでお尋ねください。

がん相談支援センター



今号の表紙



本院看護部
4階東棟看護師長
伊藤 洋子

産科病棟は24床の病床であり、令和3年度の分娩件数は502件でした。助産師は妊婦健診から産後の産婦健診、赤ちゃん診察、1か月健診など、妊娠中から退院後の育児期まで継続して関わっています。また、産後ケア入院を取り入れ、母親の不安やニーズに合わせた支援を行っています。当院は地域周産期母子医療センターとして宮城県から指定を受けており、産科病棟では、切迫早産、双胎、妊娠高血圧症候群など医学的ハイリスク妊産婦の管理をしています。さらに近年、未婚や家庭環境に問題があるなどの、社会的ハイリスク妊産婦が増えており、精神面の対応や母乳育児、子育てや産後の生活面での保

健指導など助産師ならではの細やかな配慮で支援を提供しています。また、社会福祉士と協働し、退院後も地域での支援が必要なケースに対して各市町村へ母子保健連絡票を用いて報告し支援依頼を行っています。地域で期待される役割を担うため、新生児蘇生法NCPR(Aコース)受講修了認定や産科出血、胎児心拍陣痛図の判読などの学習を継続し、救急やハイリスクケースに対応できる知識・技術の習得に努めています。さらに、今年度は4人の新人助産師を迎えることができました。将来の周産期を支えるスタッフを大切に育てていきたいと考えています。

手術の対象と患者さんのメリット

消化器疾患でロボット支援手術の対象となりうるのは、胃がん、大腸がん、食道がん、膵臓がんですが、当院ではまず胃がんの手術を開始し、徐々に適応を拡大していく方針です。胃がんでのロボット手術の対象は、内視鏡治療の適応とならない根治手術が必要な全ての患者さんです。

また泌尿器疾患では、前立

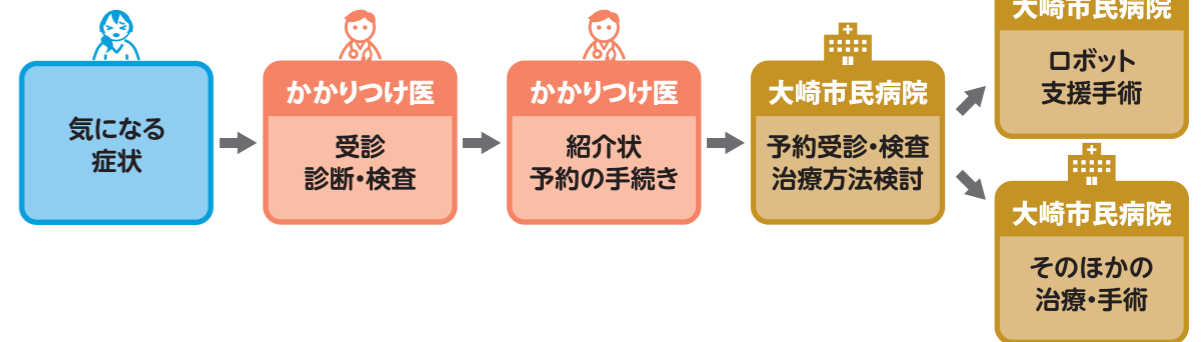
腺がん、腎臓がん、膀胱がん、副腎腫瘍です。当院ではまずロボット支援腹腔鏡下前立腺摘除術を開始する予定であり、その後順次他の腫瘍に対するロボット手術を始める予定です。

ロボット手術のメリットは、まず腹腔鏡手術と同様、体への負担が少ないことです。数か所の小さな切開部から手術を行うため、創が小さく出血も抑えられます。そのため手術後の回復が早く、患者さんの負担が軽減されます。また、高画質な3D画像で手術

画像が映し出されるため、術者はより正確に体内の状況を把握することができます。それに加えて、ダヴィンチの鉗子は多関節を持ち、従来の開腹手術や腹腔鏡手術では不可能であった角度から自由自在に手術部位へのアプローチが可能となり、さらに手ぶれ補正機能を備えていることで、より正確な手術が可能になります。

また手術費用に関して、以前は自由診療で行われていたものが、2018年から保険収載され、

手術を受けるまでの流れ



全て保険診療で行われています。他の手術と同様、高額療養費制度の対象となるため、ロボットを使用する事で患者さんの負担は大幅に高くなることはありません。

安全かつ確実な手術完遂へ向けて

ダヴィンチを導入すれば、すぐに次の日から使用できるものではなく、ロボット手術を行うには診療科毎に認定を受ける必

要があります。ロボット手術を受けるため、専門の学会が設けた厳しい基準をクリアした術者や施設のみが、ロボット手術に携わることができます。

導入には専門のチームが必要で、チームは術者、助手、麻酔科医師、看護師、臨床工学技士から構成されます。シミュレータを用いたトレーニング、自施設手術室において模擬患者の体位作成やダヴィンチの操作方法が必要になります。また、ロボット支援下手術を実際に見

学し、知識と技術の共有、手術手技の向上を行います。手術の大原則は安全かつ確実に手術を完遂することです。手術を受けた患者さんから当院で手術を受けて良かったと感じていただけるように取り組んでいきたいと思っています。



地域の 医療機関のご紹介

当院は、身近な医療機関と役割分担を図り、地域全体で切れ目のない医療を提供することを目指しています。
こちらでは、当院の登録医療機関(かかりつけ医)をご紹介します。

医療法人 英正会 関井レディースクリニック

〒989-6115
大崎市古川駅東2丁目10-31
TEL 0229-21-3666
<https://sekiiladies.com>



診療科目

産科・婦人科・麻酔科

受付時間

9:00~11:00 / 14:30~17:00

	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	※1	○	○	※2	-
午後	○	○	※1	○	○	-	-

※1:手術日(一般外来は行っていません)
※2:受付時間は9:00~12:00

休診日

土曜日午後・日・祝

地域の皆さんへ

平成13年、大崎市古川に産科・婦人科・麻酔科クリニックとして開院しました。これまで10,000人あまりの出産に立ち会い、その間も、合併症や早産のリスクがある妊婦さんについては大崎市民病院の産科・小児科の先生方と連携して対応して参りました。

ご夫婦で妊婦健診に来られる方、立ち会い出産を希望される方が増えている中、このコロナ禍で制限を付けざるを得ないことが残念ですが、妊娠・出産そして女性の健康を生涯サポートし、地域医療に貢献して参りますので、女性の健康で気になることがあればご受診ください。

わんや産婦人科医院



〒989-6161
大崎市古川駅南3-11-2
TEL 0229-21-0303
<http://www.wanya.co.jp>

診療科目

産科・婦人科

受付時間

8:45~12:00 / 14:30~17:00

	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	※1	○	※3	-
午後	○	○	○	※2	○	-	-

※1:妊婦健診・がん検診
※2:1ヶ月健診・産後健診
※3:受付時間は8:45~13:00

休診日

土曜日午後・日・祝

地域の皆さんへ

平成13年に古川駅南に開院をして、20年が経ちました。大崎市民病院の産科・小児科との連携とバックアップのおかげで、10,000人以上の赤ちゃんの誕生に立ち会うことができました。

祖父の代で「おわん屋」を始め、父の代で「わんや化粧品店」に変わり、私の代で「わんや産婦人科医院」となりました。女性にかかわる職業に就いたのは必然であったかもしれません。これからもお産だけでなく、更年期障害、不妊症、がんの予防と早期発見、月経困難への対応など、女性のための診療所として努めていきたいと思っております。今後とも宜しくお願いいたします。

